

IV-2

新しい経済の形(1)―対等な人どうしによる共同生産

分量が多くなりそうなので予定を変更して、当初IV-2として考えていた内容をIV-2とIV-3の二つに分けることにします。それによって、その後の予定も変更することになります。

さて、資料IV-1の最後の方で「協同」といったことが出てきました。その観点から、ここでは「共／コモン」と「対等な人どうしによる生産」ということに目を向けたいと思います。これらのうち「共／コモン」については、【1】の「★補足」を参考にしてください。一方、「対等な人どうしによる生産」については、すでに資料IV-1の【27】に登場していますが、念のため確認しておきます。

フィンランド語の *vertaistuotanto* は英語では *peer production* というようです。ここに出てくる *peer* という語は「仲間、同等の人」といった意味です。フィンランド語の *vertais-* は *vertainen* という単語の子音語幹ですが、この語が *peer* 「仲間、同等の人」に相当するようです。結果的に *vertaistuotanto* (*peer production*) とは「同等の人々による生産」ということになりますが、このような作業の代表的な例として挙げられるのが Wikipedia というインターネット上の辞書だろうと思います(以下の資料にも出てきます)。これは不特定多数の人々が上下関係なく、それぞれの知識を動員して進めていく作業です。この語を「対等な人(ピア)どうしによる共同生産」と説明している柴田裕之さんという翻訳家もいます(ジェレミー・リフキン・柴田裕之訳『限界費用ゼロ社会』NHK 出版、2015年、37ページ:【15】の「★補足」も参照してください)。この資料では柴田裕之さんによる説明を参考にして「対等な人どうしによる共同生産」としておくことにします。

【1】

Yhteiset (engl. commons) ovat jotain, minkä me jaamme yhteisesti. Tämä aluksi kehämäiseltä vaikuttava määritelmä kietoo sisälleen kolme tärkeää näkökulmaa siihen, miten ihminen ympäröivää maailmaa käyttää.

■ 語句・文法

yhteiset 「共、コモン(ズ)、共有財、; 共有地、入会地」[複主] < yhteinen (「★補足」を参照) / jotain 「何か」[分] < jokin / minkä 「それを」[属対] < 関係代名詞 mikä / yhteisesti 「共有して、一緒に」[副] < yhteinen / aluksi 「最初は」[変] < alku < alkaa / kehämäiseltä vaikuttava 「枠のように感じられるような」(kehämäiseltä [奪] < kehämäinen < kehä, vaikuttava 能現分 < vaikuttaa 「~のようにみえる、~のように感じられる」 / määritelmä 「定義」 < määritellä / kietoa 「包む」 / sisälleen 「自らの中へ」[向]+ 単 3 所接 < sisä / kolme tärkeää näkö-kulmaa 「三つの重要な視点を」 / siihen, miten ~ 「どのように~するのかに対して」 / ympäröivää maa-ilmaa 「取り巻く世界を」(ympäröivää [分] < ympäröivä 能現分 < ympäröidä)

● フィンランド語理解のための訳例

共／コモンス(英語では commons)は|何かである、|それを我々は分ける|一緒に。この|最初は

枠のように感じられるような定義は|包み込む|自らの内へ|3つの重要な視点を|〈次のこと〉[に対する|いかに人間は|取り巻く世界を|利用するのか]。

◎意訳

共／コモン(英語では commons)とは、我々が共有する何かのことである。この、一見すると大枠のように感じられる定義は、人間が自分たちを取り巻く世界をどのように利用するのかということに対する重要な3つの視点を含んでいる。

★補足

yhteinen「共／コモン」(複数形 yhteiset)という語が登場しました。この語は、本来は「共通の、共有の」といった意味の形容詞ですが、ここでは名詞として、英語の common に当たるものとして使われています。それでは common とは何なのか、ですが、これはどうも難しい問題でもあるようです。ここでは難しい議論へは立ち入らずに、文献からの引用を見ておきたいと思います。

近年進むマルクス再解釈の鍵となる概念のひとつが、〈コモン〉、あるいは〈共〉と呼ばれる考えだ。〈コモン〉とは、社会的に人々に共有され、管理されるべき富のことを指す。二十世紀の最後の年にアントニオ・ネグリとマイケル・ハートというふたりのマルクス主義者が、共著『〈帝国〉』のなかで提起して、一躍有名になった概念である。(斎藤 2020: 141)

では、〈コモン〉とは、そもそも何だろうか。日本語では〈共〉とも訳される概念で、誰かや企業が独占するのではない「共有物」という意味だ。ひとまずは宇沢弘文氏の「社会的共通資本」を思い浮かべてもいいだろう。(斎藤 2023: 3)

それでは宇沢弘文さんの「社会的共通資本」とはどのようなものなのでしょう。まずは「制度主義」という言葉から確認しておきます。

制度主義は、資本主義と社会主義を超えて、すべての人々の人間的尊厳が守られ、魂の自立が保たれ、市民的権利が最大限に享受できるような経済体制を実現しようとするものである。[……]社会的共通資本は、この制度主義の考え方を具体的なかたちで表現したもので、二十一世紀を象徴するものであるといってもよい。(宇沢 2000: i)

社会的共通資本は、一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置を意味する。

社会的共通資本は自然環境、社会的インフラストラクチャー、制度資本の三つの大きな範疇にわけて考えることができる。大気、森林、河川、水、土壌などの自然環境、道路、交通機関、上下水道、電力・ガスなどの社会的インフラストラクチャー、そして教育、医療、司法、金融制度などの制度資本が社会的共通資本の重要な構成要素である。都市や農村も、さまざまな社会的

共通資本からつくられているということもできる。(宇沢 2000: ii)

以上から yhteinen の意味するところを理解してください。さらに yhteinen が非常に重要なものだと考える背景については、短いのですが次の引用を参考にしてください。

[……] 他者と協働しながら、市場の競争や独占に抗い、共に生きていくことを可能にするのが〈コモン〉なのです。(斎藤 2023: 252)

📖 引用した文献

斎藤幸平. 2020. 『人新生の「資本論」』集英社新書.

斎藤幸平. 2023. 「はじめに一今、なぜ〈コモン〉の「自治」なのか？」斎藤幸平・松本卓也 編 『コモンの「自治」論』集英社シリーズ・コモン. 1-8.

宇沢弘文. 2000. 『社会的共通資本』岩波新書.

なお、この資料では yhteinen は「共／コモン」と訳しておくことにします。それでは、【1】のテキスト出てきた「3つの視点」について、もう少し詳しく見ていくことにします。

【2】

Ensiksi: mikä ”jotain”? Mitkä ovat asioita, jotka näemme tuotannon tai kulutuksen tarpeisiin käytettävänä resursseina? [.....] Aluksi resursseilla tarkoitettiin lähinnä luonnonvaroja, myöhemmin sellaisiksi alettiin lukea myös aineettomat hyödykkeet kuten tieto.

■ 語句・文法

asioita「物事」[複分] < asia / jotka「それらを」[複主対] < joka / tuotannon「生産の」[属] < tuotanto < tuottaa / kulutuksen「消費の」[属] < kulutus < kuluttaa / tarpeisiin käytettävänä resursseina | 「必要性に利用される資源として」(tarpeisiin [複入] < tarve, käytettävänä「利用されるような」[複様] < käytettävä 受現分 < käyttää, resursseina [複様] < resurssi「資源」) / resursseilla「資源<という語>により」[複接] < resurssi / tarkoitettiin「意味された」受過 < tarkoittaa / luonnon-varoja「天然資源を」[複分] < -vara / sellaisiksi alettiin lukea「そのようなものとして数え始めた、そのようなものに含め始めた」(sellaisiksi [複変] < sellainen, alettiin 受過 < alkaa, lukea「数える、含める」) / aineettomat「無形の、非物質的な」[複主対] < aineeton < aine / hyödykkeet「有用財」[複主対] < hyödyke < hyöty

● フィンランド語理解のための訳例

第一に: 「何か」とは何なのか。何が物事か、| [それらを我々はみなす | 生産の、あるいは消費の | 必要性に | 利用されるような資源として]。[.....] 最初は | 資源<という語>により | 意味されていた | おもに天然資源を、 | 後には | そのようなものとして数えられ始めた | また無形の有用物を | 知識のような。

◎意訳

第一に重要な視点:「何か」とはいったい何であるのか。生産や消費のために利用される資源と我々がみなすものとは何なのか。[.....]もともと「資源」という語により意味されたのはおもに天然資源であったが、後には知識のような無形の有用物も資源に含められるようになった。

【3】

Toiseksi: ketkä ”me”? Yhteiset ovat resurssiyhteisöjä. Yhteisön rajat ja yhteisön rakenne määrittävät, minkälaiset käyttötavat ja -oikeudet resursseihin sallitaan. Yhteisen tutkimuksessa yhteisöjen analyysi kohdistuu tästä näkökulmasta muun muassa päätöksenteon menetelmiin ja instituutioihin, hierarkioihin, palkitsemisen järjestelmiin ja oikeudenmukaisuuden kriteereihin.

■ 語句・文法

resurssi-yhteisöjä「資源共同体」[複分]<-yhteisö/määrittää「特定する」/käyttö-tavat ja -oikeudet「使用法と使用権を」(tavat [複主対]<tapa, oikeudet [複主対]<oikeus) /sallitaan「許される」受現 <sallia/yhteisen tutkimuksessa「共/コモンの研究において」/analyysi「分析」/kohdistua「向けられる」/päätöksen-teon「意思決定の」[属]<-teko <tehdä/menetelmiin「方法へ」[複入]<menetelmä/instituutioihin「制度へ」[複入]<instituutio/hierarkioihin「階層へ、ヒエラルキーへ」[複入]<hierarkia/palkitsemisen järjestelmiin「報奨を与える制度へ」(palkitsemisen [属]<palkitseminen 動名 <palkita, järjestelmiin [複入]<järjestelmä) /oikeuden-mukaisuuden kriteereihin「公正さの基準へ」(oikeuden-mukaisuuden [属]<-mukaisuus, kriteereihin [複入]<kriteeri)

● フィンランド語理解のための訳例

第二に:「我々」とは誰なのか。共/コモンとは資源共同体だ。共同体の境界と|共同体の構造は|特定する、|[どのような使用法と使用権が|資源に対して|許されるのか]。共/コモンの研究において|共同体の分析は向けられる|この視点から|とりわけ|[意思決定の方法と制度へ、|階層へ、|報奨制度へ|そして公正さの基準へ]。

◎意訳

第二に重要な視点:「我々」とは誰であるのか。共/コモンとは資源(を共有する)共同体である。共同体の境界線と共同体の構造により、資源の利用についてどのような方法と権利が認められるかが決まる。このような観点から共/コモンの研究における共同体の分析は、なかでも意思決定の方法や制度、階層、報奨制度、正義の基準に焦点を当てるものとなっている。

★補足

【3】で出てきたように「共/コモン」は単なる資源というよりも、それを管理する共同体の役割を重視する概念のようです。その内容については、次の【4】【5】でもう少し具体的に見ていきます。

【4】

Kolmanneksi: miten yhteinen ”jaetaan”? Kyse ei ole samasta asiasta kuin kakun jakamisessa eli nollasummapelistä, jossa toisen etu on toisen haitta. Sen sijaan kyse on monille osapuolille mahdollisista yhtäaikaisista oikeuksista, joiden sisältö ja laajuus vaihtelevat tilanteesta toiseen. Näiden oikeuksien jako on harvoin kertakaikkinen, yhdellä kertaa suoritettu ja kaikki tilanteet kattava ”perustuslaki”, vaan käytännössä yhteinen elämä yhteisten asioiden kanssa vaatii jatkuvaa säätöä ja ponnistelua. Jakaminen ei ole pelkkää resurssien kuluttamista, vaan myös niiden tuottamista, kunnossapitoa ja vahvistamista.

■ 語句・文法

kolmanneksi「第三に、三番目に」[変]< kolmas < kolme/ jaetaan「分けられる」受現 < jakaa/ kyse「問題」/ jakamisessa「分けることにおいて」[内]< jakaminen 動名 < jakaa/ nolla-summa- pelistä「ゼロ和ゲームについて、ゼロサムゲームについて」[出]< -peli(「ゼロサムゲーム」とは、関係者の損得の合計がゼロになることを意味し、つまり誰かが得をすれば別の誰かは必ず損をすることになるような事態をさします) / toisen「一方の」[属]< toinen/ monille osa-puolille「多くの当事者にとって」[向]< moni osa-puoli/ mahdollisista yhtä-aikaisista oikeuksista「ありうる同時の権利について」[複出]< mahdollinen yhtä-aikainen oikeus/ joiden「それらの」[複属]< joka/ sisältö「内容」< sisältää/ laajuus「広さ、範囲」< laaja/ vaihdella「変化する、異なる」< vaihtaa/ tilanteesta toiseen「状況によって」(tilanteesta [出]< tilanne「状況」、toiseen [入]< toinen) / jako「分配、分けること」< jakaa/ harvoin「めったに~ない、まれに」< harva/ kerta-kaikkinen「一度限りの」/ yhdellä kertaa suoritettu「一度で行われるような」(suoritettu 受過分 < suorittaa) / kaikki tilanteet kattava「すべての状況を覆いこむような」(kattava 能現分 < kattaa) / käytännössä「実際に」[内]< käytäntö/ jatkuvaa「継続的な」[分]< jatkuva 能現分 < jatkaa/ säätöä「調整を」[分]< säätö < säätää/ ponnistelua「努力を、奮闘を」[分] < ponnistelu < ponnistella/ kuluttamista「消費すること」[分]< kuluttaminen 動名 < kuluttaa/ tuottamista「生産すること」[分]< tuottaminen 動名 < tuottaa/ kunnossa-pitoa「維持、管理、保守」[分]< kunnossa-pito < pitää kunnossa/ vahvistamista「強化すること」[分]< vahvistaminen 動名 < vahvistaa < vahva

● フィンランド語理解のための訳例

第三に:どのように共/コモンは「分けられるのか」。問題は同じことについてではない|ケーキを分けることにおけるのとは|つまりゼロサムゲームについて<ではない>、|そこでは一方の利は他方の害である。それに対して|問題は|多くの当事者にとっての|ありうる同時の権利についてである、|それらの内容と範囲は異なる|状況によって。これらの権利の分配は|めったに~ではない|[一度限りの、|一度で行われるような|そしてすべての状況を覆いこむような|「基本法」、<そうではなく>実際には|[共通の生活は|共通の物事との]|要求する|継続的な調整と努力を。分けることは|~ではない|単なる資源を消費すること、|<そうではなく>また、それらを生産すること、維持すること、そし

て強化すること。

◎意識

第三に重要な視点:共/コモンとはどのように「共有」されるのか。そこで問題となるのは、たとえばケーキを分けることにおけるようなものではない。つまり、誰かが有利になれば別の誰かが不利になるようなゼロサムゲームが問題となるのではない。そうではなく問題となるのは、多くの当事者が同時に権利をもちうることであり、その内容や範囲は状況によって異なることになる。このような権利の分配は、一回限りの、一度で実行できるような、あらゆる状況を含むような「憲法」のようなものであることはまずなく、実際には、共通の関心事を抱えながら共同生活を送ることは継続的な調整と努力を必要とするのである。共有とはただ単に資源を消費することではなく、それらを生産し、維持し、強化することでもあるのである。

【5】

Erään viime vuosina keskustelua herättäneen näkökulman yhteisiin on tuonut yhteisiin pohjautuvan vertaistuotannon (commons-based peer production) idea, jonka piirteitä ovat hierarkioita välttävä työnjako, suurten ihmisjoukkojen spontaanisti koordinoitu yhteistoiminta sekä jonkinasteinen riippumattomuus markkinamekanismista.²²

◇文献注(文中で言及されている参考文献)

22. Yochai Benkler, *The Wealth of Network: How Social Production Transforms Markets and Freedom*. New Haven [Conn.]: Yale University Press, 2006.

■語句・文法

keskustelua herättäneen näkö-kulman「議論を呼び起こすような視点を」(herättäneen [属対] < herättänyt 能過分 < herättää) | yhteisiin「共へ/コモンへ」[複入] < yhteinen / yhteisiin pohjautuvan「共/コモンにもとづくような」(pohjautuvan [属] < pohjautuva 能現分 < pohjautua < pohja) / vertais-tuotannon「対等な人どうしによる共同生産の、ピア生産の」/ idea「考え」(この語が文の主語です) / piirteitä「特徴」[複分] < piirre / hierarkioita välttävä työn-jako「階層(上下関係)を避けるような分業」(välttävä 能現分 < välttää) / ihmis-joukkojen「人間集団の」[複属] < -joukko / spontaanisti「自発的に」 / koordinoitu「調整されたような、まとめられたような、コーディネートされたような」受過分 < koordinoida / yhteis-toiminta「協同作業」 / jonkin-asteinen「ある程度の」 / riippumattomuus「独立性、自立性」 < riippumaton < riippua / markkina-mekanismista「市場メカニズムから」[出] < -mekanismi

●フィンランド語理解のための訳例

ある|近年に|議論を呼び起こしたような視点を|共/コモンへ|もたらした|[共/コモンにもとづくような|対等な人どうしによる共同生産(英語では commons-based peer production)の|考えが]、|その特徴である|上下関係を避けるような分業、|大きな人間集団の自発的に調整された共同作

業|そして、[ある程度の自立性|市場メカニズムから]。

◎意訳

近年になって議論を呼び起こしてきた視点を共／コモンにもたらしのが、「共／コモンにもとづくような対等な人間どうしによる生産（英語では commons-based peer production）」という考え方である。それは上下関係といった階層関係を避けるような分業、自発的に調整された大きな集団による共同作業、そして市場メカニズムからのある程度の自立性といったことを特徴としている。

★補足

資料IV-1では「競争」ではなく「協同」が重要だという話が出てきましたが、この【5】で出てきた「対等な人どうしによる生産」という考え方の中核にあるのも、やはり「協同（共同、協働）」ということだと思います。これについては、さらに【14】の「★補足」も参考にしてください。

【6】

Oppikirjaesimerkki vertaistuotannolla rakennetusta yhteisvauraudesta on avoin tietosanakirja Wikipedia.

■語句・文法

vertais-tuotannolla「対等な人どうしによる共同生産により」[接]< -tuotanto / rakennetusta yhteis-vauraudesta「構築された共有財について」[出]< rakennettu yhteis-vauraus (rakennettu 受過分 < rakentaa, yhteis-vauraus「共有財、共／コモン」) / tieto-sana-kirja「百科事典」

●フィンランド語理解のための訳例

[教科書的な例は|対等な人どうしによる共同生産により|構築された共有財についての]|である|オープンや百科事典|Wikipedia。

◎意訳

対等な人どうしによる共同生産という形で構築された共有財の代表的な例が、すべての人に開かれた百科事典であるウィキペディアである。

★補足

この後でウィキペディアやリナックスについて読んでいくこととなります。ただし、私はコンピューターについてはよくわかりませんので、説明があいまいな部分もあると思いますが、どうか勘弁してください。

【7】

Wikipedia on hyvä esimerkki Internetin mahdollistaman vertaistuotannon (eng. peer production) lippulaivoista. Samalla tavalla kuin maksuton Linux tarjoaa varteenotettavan haasteen maksullisille käyttöjärjestelmille, Wikipedia on jo osin syrjäyttänyt perinteiset maksulliset tietosanakirjat tavallisen tiedonhakijan työkaluna.

■ 語句・文法

Internetin mahdollistaman vertais-tuotannon「インターネットが可能にした対等な人どうしによる共同生産の」(mahdollistaman [属] < mahdollistama 動分 < mahdollistaa < mahdollinen) /lippulaivoista「主要製品について」[出] < lippu-laiva「旗艦; 主要製品; 代表」/maksuton「無料の」< maksu /Linux「リナックス」(「リナックス」とはコンピューターを動かすオペレーティング・システム(OS)のことだと思いますが、これについては次の【8】以降で読んでいきます) /varteen-otettavan「注目すべき、考慮すべき、重要な」[属対] < -otettava 受過分 < ottaa (ottaa varteen「注目する、考慮に入れる」) /haasteen「挑戦を」[属対] < haaste < haastaa /maksullisille「有料の」[複向] < maksullinen < maksu /käyttö-järjestelmille「オペレーティング・システムに対して、OS に対して、基本ソフトに対して」[複向] < -järjestelmä /osin「部分的に」[複具] < osa /syrjäyttää「退ける、押し退ける、取って代わる」< syrjä /tiedon-hakijan「情報検索者の」[属] < -hakija < hakea /työ-kaluna「道具として、ツールとして」[様] < -kalu

● フィンランド語理解のための訳例

ウィキペディアはよい例である | [インターネットが可能にした | 対等な人どうしによる共同生産 (英語: peer production) の主要製品について]。同様に | < 次のこと > [と | 無料のリナックスは提供する | 注目すべき挑戦を | 有料のオペレーティング・システムに対して]、ウィキペディアはすべに部分的に | 退けている | 伝統的な有料の百科事典を | [ふつうの情報検索者の | 道具として]。

◎ 意訳

ウィキペディアは、インターネットによって可能になった対等な人どうしによる共同生産 (英語では peer production) の代表的な例である。有償のオペレーティング・システムに対して無償のリナックスが注目すべき挑戦者となっているのと同様に、情報を検索しようとするふつうの人々にとっての道具としてウィキペディアは、すでに部分的には有料の百科事典に取って代わっている。

【8】

Vertaistuotanto on yksi hyvä kanava palveluiden tuottamiselle. Harrastusten, elämäntapojen tai tiedontuotannon ympärille on muodostunut lukuisia vertaisryhmiä, joiden järjestäytyminen on ei-hierarkkista ja yleensä epäkaupallista. Vertaistuotanto voidaan nähdä myös vaihtoehtoisten elämänmuotojen rakentumisena. Esimerkiksi Linux ja muut avoimen lähdekoodin ohjelmat tai toimintamallit ovat muuttaneet tapamme hahmottaa tietoa ja sen tuotantoa. Avoimen lähdekoodin ympärille on mahdollista kehittää uutta palveluteollisuutta ja wikipohjaisesti voidaan hyödyntää niin sanottua yhteistä älyä. Ilmastomuutoksen hillitsemiseksi ja materiaalsen liikakulutuksen rajoittamiseksi on tavaroiden yhteiskäyttö merkittävä tulevaisuuden palvelusektori.

■ 語句・文法

kanava「チャンネル;運河;道、経路」/tuottamiselle「生産することへ」[向]< tuottaminen 動名 < tuottaa / tiedon-tuotannon「知識・情報生産の」[属]< -tuotanto / muodostua「形成される」/ lukuisia「数多くの」[複分]< lukuisa / vertais-ryhmiä「対等な人どうしのグループが、ピアグループが」[複分]< -ryhmä / joiden「それらの」[複属]< joka / järjestäytyminen「組織化すること」動名 < järjestäytyä < järjestää / ei-hierarkkista「非階層的な」[分]< -hierarkkinen / epä-kaupallista「非商業的な」[分]< -kaupallinen / vaihto-ehtoisten elämän-muotojen rakentumisena「選択的な生活形態の構築として、代替的なライフスタイルの構築として」(rakentumisena [様]< rakentuminen 動名 < rakentua) / avoimen lähde-koodin「オープンソースコードの」[属]< avoin lähde-koodi (lähde-koodi「ソースコード」とはプログラミング言語により書かれたコンピューターに命令を与える文字列のこのようですが、それが avoin「オープンな」ということは、そのようにして書かれたプログラムのコードを無償で公開し、自由な利用や改変を許すことのようにです。「なんでも金儲け」という考え方からすれば信じられないようなことですが、このような取り組みは数多く存在しているようです。) / toiminta-mallit「業務モデル、オペレーティング・モデル」/ tapamme hahmottaa「理解するための我々の方法を」(tapamme [分]+ 複 1 所接 < tapa, hahmottaa「理解する」) / palveluteollisuutta「サービス産業を」[分]< -teollisuus < teollinen < teko < tehdä / wiki-pohjaisesti「ウィキにもとづくようにして、不特定多数の人々が共同するようにして」/ hyödyntää「活用する」< hyöty / niin sanottua「いわゆる」(sanottua [分]< sanottu 受過分 < sanoa) / yhteistä älyä「一般的知性を」[分]< yhteinen äly (これはカール・マルクスの言葉で、英語では general intellect となるようです。正直なところ私には十分には理解できませんが、「一般的知性」というものは「集団的な知性、社会的な知性」とでも呼ぶことのできるもののようです。ここでは「本来であれば共 / コモンとして社会全体で共有すべき知性や知識」のことだと理解しておけばよい気がします。) / hillitsemiseksi「抑制するために」[変]< hillitseminen 動名 < hillitä / liika-kulutuksen「過剰消費の」[属]< -kulutus / rajoittamiseksi「制限するために」[変]< rajoittaminen 動名 < rajoittaa < raja / yhteiskäyttö「共同利用、シェアリング」/ palvelu-sektori「サービス分野、サービス・セクター」

●フィンランド語理解のための訳例

対等な人どうしによる共同生産は一つのよい道である|サービスを生産することに対する。趣味の、生活様式の、あるいは知識・情報生産の周りへ|形成されている|多くの|対等の人どうしのグループが、|それらの組織化は|非階層的である|そして一般的に非商業的である。対等な人どうしによる共同生産はみなすことができる|また|[代替的な生活形態の|構築するものとして]。たとえばリナックスや|そのほかの|オープンソースコードの|プログラムは|あるいは業務モデルは|変えてきている|我々の方法を|理解するための|知識やその生産を。オープンソースコードの周りには|可能である|発展させることが|新しいサービス産業を|そしてウィキにもとづくようにして|活用できる|いわゆる一般的知性を。気候変動の|抑制するために|そして物質的な過剰消費の|制限するために|である|品物の共同利用は|重要な|将来のサービス分野。

◎意訳

対等な人どうしによる共同生産は、サービスを生み出すための一つのよい道筋である。趣味、生活様式、あるいは知識・情報生産の周りには対等の人々によるグループが数多く生み出されているが、それらの組織は上下関係などのない非階層的なものであり、また一般的に営利を求めるようなものでもない。つまり、対等な人どうしによる共同生産はまた、これまでのものに対して代替的となる生活様式を構築するものとしてみることもできるだろう。たとえばリナックスや、そのほかのオープンソースコードにもとづくプログラムや業務モデルは、情報やその生産に関する我々の理解の在り方に変更を迫ってきている。オープンソースコードを活用することで新しいサービス産業を発展させることが可能であり、ウィキにもとづくようにして、いわゆる「一般的知性」と呼ばれる社会全体で共有すべき知性を活用することもできるだろう。気候変動を抑え、物質的な過剰消費を制限するためには、〈対等な人どうしによる生産がもたらすような〉ものの共同利用が注目すべき未来のサービス分野となるだろう。

★補足

wiki という語を *Kielitoimiston sanakirja* (<https://www.kielitoimistonsanakirja.fi/#/>) で調べると、“= wikisivusto”となっていますので、その wikisivusto「ウィキサイト」を見ると次のような語釈が出てきます。

käyttäjien toteuttama verkkosivusto, jota he voivat muokata suoraan selaimella, wiki.

利用者たちが作成するウェブサイトで、それを彼らはブラウザで直接編集できる、wikiと同じ。

調べてみると、この wiki という語はハワイ語で「速い」を意味する *wikiwiki* からとられたものだそうです。いずれにしても、不特定多数の人々が自由に手を加えることができるようなネット上での作業について使われるようです(この理解で正しいでしょうか)。

【9】

Avoimen lähdekoodin ohjelmistolla tarkoitetaan tietokoneohjelma, jota kuka tahansa voi vapaasti käyttää, muokata, kopioida ja jakaa edelleen, useimmin ilman rahallista korvausta. Tätä avoimuuden periaatetta valvotaan lisensseillä, joilla alkuperäinen kehittäjä antaa ohjelmansa muiden käytettäväksi. Ilmaisen käytön lisäksi avoimuuden suurimpia hyötyjä on, että avoimen lähdekoodin ansiosta ohjelmistolle syntyy parhaassa tapauksessa tuhansien vapaaehtoisten jatkokehittäjien yhteisö.

■ 語句・文法

ohjelmisto「ソフトウェア」< ohjelma / kuka tahansa「誰でも」 / muokata「改変する」 / edelleen「さらに」 / useimmin「ほとんどの場合」 / korvausta「補償、代償」[分]< korvaus < korvata / avoimuuden「開放性の、オープンであることの」[属]< avoimuus < avoin / periaatetta「原則を」[分]< periaate / valvotaan「監視される」受現 < valvoa / lisensseillä「ライセンスにより、認可により」[複接]< lisenssi / joilla「それらにより」[複接]< joka / alku-peräinen「本来の、オリジナルの」 / kehittäjä「開発者」< kehittää / antaa ohjelmansa muiden käytettäväksi「自分のプログラムを他者に使用させる」(ohjelmansa [属対]+ 単 3 所接 < ohjelma、muiden「他者の」[複属]< muu、käytettäväksi「使用されるように」[変]< käytettävä 受現分 < käyttää) / 最後の長い文は補語、述語動詞、主語の 3 つから構成されています。まず avoimuuden suurimpia hyötyjä が補語、その後ろにある on が述語動詞、そして että から最後の yhteisö まで続く節が主部です。主語の että-節は単数扱いなので述語動詞も単数の on になっています。それに対して補語の suurimpia hyötyjä が複数分格になっていますが、このような複数分格の形をした補語は「~の一つ」といった意味を表すようです。 / suurimpia hyötyjä「最大の利益」[複分]< suurin hyöty (suurin 最 < suuri) / että から最後の yhteisö まで続く節が、この文の主部です / ansiosta「~のおかげで」[出]< ansio / parhaassa tapauksessa「最善の場合に」[内]< paras tapaus (paras 最 < hyvä) / tuhansien「数千の」[複属]< tuhat / vapaa-ehtoisten「自発的な、ボランティアの」[複属]< -ehtoinen / jatko-kehittäjien「さらに開発を行う人々の」[複属]< -kehittäjä

● フィンランド語理解のための訳例

オープンソースのソフトウェア<という表現>により|意味される|コンピューターのプログラム、|それを誰でもできる|[自由に|利用する、|改変する、|コピーする|そして分ける|さらに]、|ほとんどの場合に|金銭上の補償なしに。この|開放性の原則を|監視される|ライセンスにより、|それらにより本来の開発者は|与える|自らのプログラムを|他者の|利用されるように。無料の利用に加えて|開放性の最大の利益<の一つ>|である、|<次の>[ことが|オープンソースのおかげで|ソフトウェアには|生まれる|最善の場合には|数千の|自発的な|さらなる開発を行う人々の|共同体が。

◎ 意訳

オープンソースによるソフトウェアとは、ほとんどの場合に金銭的な代償を支払わず誰もが自由に

利用、改変、コピーし、そして配布のできるようなコンピューター・プログラムのことを意味する。この開放性の原則は、本来の開発者が他者の利用を許すライセンスを与えることにより監視される。無償での利用に加え開放性の最大の利点の一つとなるのは、オープンソースのおかげでもっともうまく行く場合には、ソフトウェアの周辺にさらなる開発を自発的に続ける数千もの人々の共同体が誕生することである。

【10】

Linus Torvalds kehitti 1990-luvulla vapaasti jaettavan ja muokattavan ”avoimen” tietokoneiden Linux-käyttäjärjestelmän, josta on tullut oiva vaihtoehto kaupallisille käyttäjärjestelmille. Linuxin mallin mukaan on kehitetty avoimeen lähdekoodiin perustuvia ohjelmistoja.

■ 語句・文法

Linus Torvalds (1969-) 「リーナス・トーバルズ」は Helsinki で生まれたスウェーデン語系フィンランド人のプログラマー（発音上は「リーヌス・トゥールヴァルツ」とでもした方が近いかもしれません）／jaettavan ja muokattavan「分けられるような、そして改変されるような」[属対] < jaettava ja muokattava (jaettava 受現分 < jakaa, muokattava 受現分 < muokata) ／josta on tullut「それは～になっている」(josta [出] < joka) ／oiva「すばらしい」= oivallinen／vaihto-ehto「選択肢、代替物」／on kehitetty「開発されている」受完 < kehittää／avoimeen lähde-koodiin perustuvia「オープンソースにもとづくような」(avoimeen lähde-koodiin [入] < avoin lähde-koodi, perustuvia [複分] < perustuva 能現分 < perustua)

● フィンランド語理解のための訳例

Linus Torvalds は開発した |1990 年代に| [自由に|分けられるような、そして改変されるような|「オープンな」|コンピューターのリナックス・オペレーティング・システムを]、|それはなっている|[すばらしい選択肢|商業的なオペレーティング・システムに対して]。リナックスのモデルにしたがって|開発されている|オープンソースにもとづくような|〈複数の〉ソフトウェア。

◎ 意訳

Linus Torvalds は 1990 年代に、自由に配布し改変できるような「オープンな」コンピューターのオペレーティング・システムを開発したが、それは市販されるようなオペレーティング・システムに対する有力な選択肢となっている。リナックスが生み出したようなモデルにしたがう形で、オープンソースコードにもとづくソフトウェアが多く開発されている。

【11】

Saadakseen kommentteja ja parannusehdotuksia Torvalds laittoi ohjelmansa vapaasti ladattavaksi internetiin. Yllätys oli melkoinen, kun ohjelmalle syntyi välittömästi maailmanlaajuinen käyttäjäkunta, joka laajeni muutamasta hakkerista nopeasti satoihin innostuneisiin Unix-harrastajiin. He eivät tyytyneet pelkästään käyttämään Linuxia vaan alkoivat laajentaa ja parannella sitä omiin tarpeisiinsa paremmin sopivaksi. Näin Linuxille syntyi laaja kehittäjäyhteisö. Siinä Torvalds toimi itseoikeutetusti päällikkönä, joka hyväksyi Linuxin tärkeimmät kehityssuunnat.

■ 語句・文法

saadakseen「手に入れるために」A 不[変]+ 単₃ 所接 < saada / parannus-ehdotuksia「改善の提案を」[複分]< -ehdotus < ehdottaa (parannus < parantaa) / ladattavaksi「ダウンロードされるように、ダウンロードできるように」[変]< ladattava 受現分 < ladata / välittömästi「すぐに」[副]< välitön < väli / maa-ilman-laajuinen「世界規模の」/ käyttäjä-kunta「利用者集団」/ laajeni「拡大した」過単₃ < laajeta < laaja / hakkerista「ハッカーたちから」[複出]< hakkeri / satoihin innostuneisiin Unix-harrastajiin「数百の熱中したユニックス愛好者たちへ」(satoihin[複入]< sata, innostuneisiin[複入]< innostunut 能過分 < innostua < into, Unix-harrastajiin[複入]< Unix-harrastaja (Unix「ユニックス」とはオペレーションシステムの一種で世界でもっとも古いものだそうです。ただ、私にはよくわかりませんので、ご自身で調べてみてください。)/ tyytyä「満足する」/ laajentaa「拡大させる」/ parannella「(繰り返し、継続的に)改良する」< parantaa / omiin tarpeisiinsa paremmin sopivaksi「自らの必要性によりよく合致するように」(tarpeisiinsa[複入]+ 複₃ 所接 < tarve, paremmin「よりよく」[副] 比 < hyvä, sopivaksi「適するように」[変]< sopiva 能現分 < sopia) / itse-oikeutetusti「当然のことながら、議論の余地なく、明らかに」[副]< itse-oikeutettu (oikeutettu 受過分 < oikeuttaa < oikea) / päällikkönä「司令官として、指導者として」[様]< päällikkö / tärkeimmät「もっとも重要な」[複主対]< tärkein 最 < tärkeä / kehitys-suunnat「開発の方向を」[複主対]<

-suunta

● フィンランド語理解のための訳例

手に入れるために|コメントや改善の提案を|Torvaldsは置いた|自分のプログラムを|自由にダウンロードできるように|インターネットへ。驚きはかなりのものだった、|プログラムへ生まれたとき|すぐに|世界的規模の利用者集団が、|それは拡大した|何人かのハッカーたちから|急速に|数百の熱中したユニックス愛好者たちへ。彼らは満足しなかった|ただ単に|使うことに|リナックスを|<そうではなく>始めた|拡大し、そして改良する|それを|[自らの必要性に|よりよく|適するように]。こうしてリナックスへ生まれた|広い開発者共同体が。その中で Torvalds は働いた|当然のことながら|司令官として、|それが承認した|リナックスのもっとも重要な開発方向を。

◎ 意訳

コメントや改良のための提案を手に入れるために、Torvalds は自由にダウンロードできるよう自分

のプログラムをインターネット上に公開した。そのプログラムにはすぐに世界的規模の利用者集団が誕生したが、それが数人のハッカーから数百人の熱心なユニックス愛好者たちへと急速に拡大したときの驚きはかなりのものだった。彼らはただ単にリナックスを利用することに満足せず、自らの必要性によりうまく合致するようプログラムを拡張し改良し始めた。このようにしてリナックスには広範囲の開発者共同体が誕生した。その中で Torvalds は、当然のことながらリーダーとして活動し、もっとも重要な開発の方向性を承認していった。

【12】

Paketeilla käyttäjät saattoivat asentaa tietokoneeseensa täysipainoisen Linux-järjestelmän, joka sisältää kaikki yleiset työkalut. Linuxista tuli 1990-luvun lopulla kilpailukykyinen vaihtoehto etenkin Windows-käyttöjärjestelmälle. Vuonna 2014 Linuxilla on noin 70 miljoonaa käyttäjää, joista merkittävä osa Afrikan, Aasian ja Etelä-Amerikan kehittyvissä maissa.

■ 語句・文法

paketeilla「パッケージにより」(ここでのパッケージとはリナックスのオペレーティング・システムに加えワープロ・ソフトやブラウザなど数種類のソフトウェアをまとめたパッケージのことです) / asentaa「インストールする」 / tieto-koneeseensa「自分のコンピューターへ」[入]+ 複 3 所接 < -kone / täysi-painoisen「きちんとした、良質の、完全な、何もかも揃った」[属対] < -painoinen / Linuxista tuli「リナックスから来た、リナックスはなった」(Linuxista [出] < Linux) / kilpailu-kykyinen「競争力のある」 / joista「それらのうち」[複出] < joka / merkittävä「注目すべき、重要な」受現分 < merkitä / kehittyvissä maissa「発展途上国の中に」[複内] < kehittyvä maa (kehittyvä 能現分 < kehittyä) / 最後の joista の後ろの部分には、おそらく on「ある、いる」という述語動詞が欠けているような気がします。

● フィンランド語理解のための訳例

パッケージにより | 利用者たちはできた | インストールする | 自分のコンピューターへ | きちんとしてリナックス・システムを、 | それは含んでいる | すべての | 一般的な道具を。リナックスから来た | 1990 年代の終わりに | 競争力のある選択肢が | とくにウインドウズ・オペレーティング・システムに対する。2014 年に | リナックスにはいる | 約 7 千万の利用者が、 | それらのうちかなりの部分が | アフリカの、アジアの、そして南アメリカの発展途上国の中に。

◎ 意訳

いろいろなソフトを含むパッケージによって、一般的なソフトのすべてを含む質の良いリナックス・システムを利用者は自らのコンピューターにインストールできるようになった。1990 年代終わりにリナックスはとくに、オペレーティング・システムであるウインドウズに対する競争力のある選択肢となった。2014 年には約 7 千万人ものリナックス利用者がおり、そのうちのかなりの部分はアフリカ、アジア、そして南アメリカの発展途上国に存在している。

【13】

Linux ei ole ainoastaan PC-kotikoneiden käyttöjärjestelmä, vaan avoimuutensa ansiosta se on levinnyt moniin muihinkin laitteisiin. Linux on esimerkiksi palvelinkoneiden yleisin käyttöjärjestelmä, ja sen varassa pyörii maailman kymmenen tehokkainta supertietokonetta. Linux löytyy lisäksi monista arjen laitteista, kuten matkapuhelimista, televisioista ja pelikonsoleista.

■ 語句・文法

ei ainoastaan ~ vaan ... 「ただ～だけではなく...」／PC-koti-kone 「(家庭で使用する) パーソナルコンピューター」／avoimuutensa ansiosta 「その開放性のおかげで」(avoimuutensa [属]+ 単 3 所接 < avoimuus)／levitä 「広がる」／laitteisiin 「機器へ、デバイスへ」[複入]< laite < laittaa／palvelin-koneiden 「サーバー・マシンの、サーバー・コンピューターの」[複属]< -kone (インターネットなどのネットワーク上で、ほかのパソコンに機能やサービスを提供してくれるコンピューターのことのようです)／yleisin 「もっとも一般的な」[最]< yleinen／sen varassa 「それにもとづいて、その助けにより」(varassa [内]< vara)／pyöriä 「回る、動く」／tehokkainta 「もっとも効率のよい」[分]< tehokkain 最 < tehokas < teho／arjen 「日常の」[属]< arki／matka-puhelimista 「携帯電話から」[複出]< -puhelin／peli-konsoleista 「ゲーム機から」[複出]< -konsoli

● フィンランド語理解のための訳例

リナックスは|ただ|パーソナルコンピューターのオペレーティング・システムであるだけでなく|その開放性のおかげで|それは広がっている|多くの他の装置へ。リナックスはたとえば|サーバー・コンピューターの|もっとも一般的なオペレーティング・システムである、|そして、それにもとづいて|回っている|世界の十の|最も効率のよい|スーパー・コンピューターが。リナックスは見つかる|加えて|多くの|日常の装置から、|<次> [のような|携帯電話から、テレビから、そしてゲーム機から]。

◎ 意訳

リナックスはただ単にパーソナルコンピューターを動かすオペレーティング・システムなのではなく、それが公開されていることから多くの他の装置でも使用されることとなっている。リナックスは、たとえばサーバー・コンピューターにおいて使用されるもっとも一般的なオペレーティング・システムとなっており、世界で最速とされる 10 のスーパー・コンピューターがリナックスにもとづいて稼働している。さらに携帯電話、テレビ、あるいはゲーム機など日常の装置にもリナックスが搭載されている。

★ 補足

携帯電話に入っている android というオペレーティング・システムもリナックスをもとにしているとのことですが、これについてもご自身で確認してください。

【14】

Linux on osoittanut, että avoimen lähdekoodin ohjelmistosta voi kehittyä kaupallisia tuotteita monipuolisempi ja parempi. Linuxin menestystarinan innoittamana on avoimuuden periaatteisiin perustuvissa hankkeissa 2000-luvulla kehitetty useita muitakin laajalti käytettyjä avoimen lähdekoodin ohjelmistoja, kuten MySQL-tietokantajärjestelmä, OpenOffice-toimisto-ohjelmisto ja Firefox-verkkoselain.

■ 語句・文法

ohjelmistosta voi kehittyä「ソフトウェアから発展しうる」／kaupallisia tuotteita moni-puolisempi ja parempi「商業的な製品よりも多様で優れた」(kaupallisia tuotteita [複分] < kaupallinen tuote, moni-puolisempi 比 < -puolinen, parempi 比 < hyvä)／menestys-tarinan innoittamana「成功物語が触発したものとして」(innoittamana [様] < innoittama 動分 < innoittaa < into)／periaatteisiin「原則へ」[複入] < periaate／perustuvissa「もとづくような」[複内] < perustuva 能現分 < perustua／hankkeissa「プロジェクトにおいて」[複内] < hanke／on kehitetty「開発された」受完 < kehittää／laajalti「広く、広範に」[副] < laaja／käytettyjä「使用されているような」[複分] < käytetty 受過分 < käyttää／MySQL-tieto-kanta-järjestelmä「マイエスキューエル・データベース〈管理〉システム」(リナックス同様にオープンソースによるシステム)／OpenOffice-toimisto-ohjelmisto「オープン・オフィス事務用ソフトウェア」(toimisto-ohjelmisto は英語では office suit となるようですが、これはワープロ、表計算、電子メール、プレゼンテーションなどに使われるソフトがまとまったもののようです。そして OpenOffice はやはりオープンソースのオフィススイートだそうです。こうカタカナが多いと、私には何が何だかわからなくなります。)／Firefox-verkkoselain「ファイアーフォックス・ウェブブラウザ」(verkkoselain とは「ウェブブラウザ」という意味ですが、ファイアーフォックスもやはりオープンソースのブラウザです)

● フィンランド語理解のための訳例

リナックスは示した、|〈次の〉[ことを|オープンソースのソフトウェアから|発展しうる|商業的な製品よりも|より多様で|そしてよりよい。リナックスの成功物語に触発されたものとして|開放性の原則にもとづくようなプロジェクトにおいて|2000年代に|開発された|多くの他の|広く利用されているような|オープンソースのソフトウェアが、|〈次の〉ような|マイエスキューエル・データベース〈管理〉システム、|オープン・オフィス事務用ソフトウェア|そしてファイアーフォックス・ウェブブラウザ。

◎ 意訳

オープンソースのソフトウェアが市販品よりも多機能で優れたものへと発展しうることをリナックスは示してくれた。リナックスの成功物語に触発されるようにして、たとえば MySQL データベース管理システム、OpenOffice オフィススイート、そして Firefox ウェブブラウザなどのような広範に利用される多くの他のオープンソースのソフトウェアが、開放性の原則にもとづく取り組みの中で 2000 年代に開発されていった。

★補足

【5】のテキストの文献注に Yochai Benkler (ヨハイ・ベンクラー) という人の名前が出てきていましたが、この方はハーバード大学法科大学院の教授だそうです。そして、【5】に出てきた”commons-based peer production”という語を作り出したのもベンクラーさんだそうです (<https://academic-accelerator.com/encyclopedia/jp/commons-based-peer-production>)。そのベンクラーさんの書いた本が日本語にも翻訳されています。

📖 推薦図書

ヨハイ・ベンクラー (山形浩生 訳). 2013. 『協力が作る社会—ペンギンとリヴァイアサン』NTT 出版。

この著作の副題の中に出てくる「リヴァイアサン」という言葉は耳にしたことがあると思います。トマス・ホブズという人の書いた『リヴァイアサン』という本があります。この「リヴァイアサン」とはもともとは旧約聖書に出てくる海の怪物だそうです。ホブズは国家権力を「リヴァイアサン」に喩えています。乱暴な言い方をすれば、我々が国家権力である「リヴァイアサン」に支配をゆだねているのは、我々が利己的で放っておけば自分の利益のためなら何をしてかすかわからない存在だからだということになります。そのように人間を利己的な存在だとみなすような人間観を、ベンクラーさんの書名にある「リヴァイアサン」という言葉は表しているのだと思います。

それに対比されているのが「ペンギン」です。では、この「ペンギン」は何なのかということです。実はリナックスのマスコットになっているのが Tux という名のペンギンなのだそうです。つまり、人間というものは自分のことだけを考えるのではなく、他者との協力を求めているのだといった人間観を象徴しているのがリナックスであり、そのマスコットであるペンギンだということだと思います。「リヴァイアサン」が象徴する利己的な人間像に対して、人間というものはたがいに協力し合うことを求めているという人間観を象徴するのにリナックスの「ペンギン」が使われているということは、「リナックス」というものが新しい人間観を具現化したものなのだとはいえるのかもしれませんが。

【15】

Vertaistuotanto edellyttää siis uudenlaisen ajatuksen ihmisluonnosta – ihmisen, joka, toisin kuin taloustieteen pääroolia näyttelevä homo economicus, ei ajattele vain itseään, vaan ennen kaikkea yhteistä: yhteisiä päämääriä, yhteisiä normeja ja yhteistä vaurautta. Pelkkä arvojen tai asenteiden muutos ei silti riitä, vaan vertaistuotantoon tarvitaan myös yhteistyöhön kannustavia teknologioita ja instituutioita.

■ 語句・文法

uuden-laisen「新しい種類の」[属対]< -lainen / ihmis-luonnosta「人間の本性について、人間性について」[出]< -luonto / ihmisen「人間を」[属対]< ihminen (この文の主語は vertais-tuotanto で述語動詞は edellyttää「前提とする」ですが、その目的語となっているのは uuden-laisen ajatuksen「新しい種類の考え方を」とこの ihmisen「人間を」の二つだと思います) / toisin kuin ~「～とは異なる

り」／pää-roolia「主役を」[分]< -rooli／näyttelevä「演じるような」能現分 < näytellä／homo economicus「ホモ・エコノミクス、経済人」(自分の経済的な利益を最大化するために合理的な行動をするのが人間であると考えられるような人間像)／ennen kaikkea「何よりも」／pää-määriä「目標を」[複分]< -määrä／normeja「規範を」[複分]< normi／vaurautta「富を、財を」[分]< vauraus／asenteiden「態度の、姿勢の」[複属]< asenne／silti「それでも」／yhteis-työhön「共同作業へ」[入]< -työ／kannustavia「鼓舞するような、促すような」[複分]< kannustava 能現分 < kannustaa

●フィンランド語理解のための訳例

対等な人どうしによる共同生産は前提とする|つまり|[新しい種類の考え方を|人間の本性について]—人間を、|それは、|<次>[とは異なり|経済学の主役を演じるホモ・エコノミクス]、考えない|ただ自分のことだけを、|<そうではなく>何よりも|共／コモンを：共通の目標を、共通の規範を|そして共通の財を。単なる|価値の、あるいは姿勢の変化は|それでも十分ではない、|<そうではなく>対等な人どうしによる共同生産には|必要である|また|共同作業へ鼓舞するような|技術と制度。

◎意識

つまり対等な人どうしによる共同生産は人間の本性に関して新しい考え方を前提とする。つまり、経済学において主役を演じるようなホモ・エコノミクスとは異なり、自分自身のことだけを考えるのではなく、何よりも共／コモン、つまり共通の目標、共通の規範、そして共通の財といったもののことを考えるような人間の存在を、対等な人どうしによる共同生産は前提とするのである。しかし、ただ単に価値観や姿勢が変化するだけでは十分ではなく、対等な人どうしの生産には協働へと人々をうながすような技術と制度もまた必要とされるのである。

★補足

ここで出てきた「ホモ・エコノミクス」とは、まさに「リヴァイアサン」が象徴する人間観なのかもしれません。それに対してリナックスの「ペンギン」が象徴するような人間観が【15】に書かれているようなものなのでしょう。このような人間観について詳しく書いている人に Jeremy Rifkin (ジェレミー・リフキン) がいます。多くの著作が日本語に翻訳されていますが、2冊だけ挙げておきます。

📖 推薦図書

ジェレミー・リフキン(柴田裕之 訳). 2015. 『限界費用ゼロ社会—モノのインターネットと共有型経済の台頭』NHK出版.

ジェレミー・リフキン(柴田裕之 訳). 2023. 『レジリエンスの時代—再野生化する地球で、人類が生き抜くための大転換』NHK出版.

どちらも数百ページに及ぶ著作で、作者の力量には目をみはるばかりですが、それとともに柴田裕之さんという翻訳者の作業には頭が下がります。このような翻訳者の存在は、日本という社会にとってかけがえのない財産だということは、いくら強調しても強調しすぎることはないと思います。

【16】

Voidaan kuitenkin esittää, että esimerkiksi pohjoismaiset julkiset palvelut ovat eräänlaisia historiallisia yhteisiä. Julkisen pohjana on yhteisestä työstä synnytetty yhteisvauraus, jota valtio organisoi. Kun siis uusliberalistinen politiikka tavaramuotoistaa ja tuo markkinavaihdon piiriin esimerkiksi julkista terveydenhuoltoa, se yksityistää palvelun organisointimuodon ja samalla palvelun perustana olevan yhteisvaurauden.

■ 語句・文法

esittää「提示する、示す」／erään-laisia「ある種の」[複分]<-lainen／julkisen pohjana「公共の基盤として」(pohjana[様]<pohja)／yhteisestä työstä synnytetty「共通の作業から生み出されたような」(synnytetty 受過分 < synnyttää)／yhteis-vauraus「共通の富・財、共／コモン」／organisoida「組織する、編成する、計画する」／tavara-muotoistaa「商品化する」／markkinavaihdon「市場交換の」[属]<-vaihto／piiriin「範囲へ」[入]< piiri／terveyden-huoltoa「保健医療事業を」[分]<-huolto／yksityistää「私営化する、民営化する、私物化する」< yksityinen／organisointi-muodon「組織形態を」[属対]<-muoto／perustana olevan「基盤としてあるような」(perustana[様]<perusta、olevan[属対]<oleva 能現分 <olla)

● フィンランド語理解のための訳例

できるだろう|しかしながら|提示することが|〈次の〉[ことを|たとえば北欧諸国の公共サービスは|ある種の|歴史的な|共／コモンである]。公共の基盤としてある|共通の作業から生み出されたような|共通の財が、|それを国家が組織する。〈次の〉[ときに|つまり|新自由主義的な政策が|商品化する|そして持ち込む|市場交換の範囲内へ|たとえば公共の保健医療事業を]、それは民営化する|サービスの組織形態を|そして同時に|サービスの基盤となっているような共通の財を。

◎ 意訳

しかし、たとえば北欧諸国における公共サービスは、ある種の歴史的な共／コモンだと主張することができよう。公共であることの基盤となるのは共同作業により生み出された共有財(共／コモン)であり、それは国家が組織している。つまり、新自由主義的政策が、たとえば公共の保健医療事業を商品化し市場での交換を可能にするときには、それはサービスの組織形態を民営化しているのと同時に、サービスの基盤となっている共有財を私有化していることになるのである。

【17】

Lisäksi on syytä korostaa, että pohjoismaista hyvinvointivaltiota on pidetty hyvin naisystävällisenä yhteiskuntapoliittisena mallina ja sen purkamisella on varmasti epätasa-arvoa tuottavia, sukupuolittain eriytyviä vaikutuksia.

■ 語句・文法

on syytä「すべきである、すべき根拠がある」／on pidetty「みなされてきた」受完 < pitää／naisystävällisenä yhteis-kunta-poliittisena mallina「女性にやさしい社会政策的なモデルとして」[様]< nais-ystävällinen yhteis-kunta-poliittinen malli／purkamisella「破壊することにより」MA 不[接]< purkaa／epä-tasa-arvoa「不平等を」[分]< -arvo／tuottavia「作り出すような」[複分]< tuottava 能現分 < tuottaa／suku-puolittain「性別ごとに、性別によって」< suku-puoli／eriytyviä「異なるような、区別されるような」[複分]< eriytyvä 能現分 < eriytyä < eri

● フィンランド語理解のための訳例

加えて|強調すべきである、|〈次の〉[ことを|北欧諸国的な福祉国家は|みなされてきた|とても女性にやさしい社会政策的なモデルとして|そして、それを破壊することにより|ある|まちがいなく|不平等を作り出すような、|性別によって区別されるような|影響が。

◎ 意訳

さらに、北欧福祉国家は非常に女性にやさしい社会政策的なモデルだとみなされてきたが、もしそれが〈民营化や私有化により〉解体されるようなことがあれば、不平等を生み出すような、性別によって区別されるような影響がまちがいなく出てくるだろうということは強調しておくべきだろう。

★ 補足

北欧諸国でも「共／コモン」としての公共サービスの民营化・私有化が進んでいるようです。この【17】に出てくる purkamisella「破壊することにより」とは、まさしく公共サービスという「共／コモン」の民营化・私有化が進むことを意味しているのだらうと思います。日本であれば、かつての「国鉄」の民营化により「移動する」ということについての不平等が拡大していることを我々（年寄り）はよく知っているはずで、そのような不平等は都市と地方、富裕層と貧困層の間だけではなく、性別をはじめとするさまざまな基準にもとづく形でますます拡大していくのでしょう（あるいは、すでに十分に拡大しているのかもしれませんが）。

【18】

Kun nykykapitalismin oravanpyörästä heittäytyy hetkeksi syrjään ja katsoo ympärilleen, on vaikea olla huomaamatta, että yhteinen todella on kaikkialla. Vallitsevan kapitalistisen järjestelmän toiminnan edellytykset perustuvat yhteiselle työlle, vuorovaikutukselle ja luovuudelle. Kapitalismi vain organisoii yhteisen epätasa-arvoisesti, sosiaalisesti ja ekologisesti kestäättömästi – ja usein tehottomasti.

■ 語句・文法

nyky-kapitalismin 「現代資本主義の」[属] < -kapitalismi / oravan-pyörästä 「リスの踏み車から、リスの回し車から」(カゴに入れられたリスが運動するための遊具のことですが、比喩的に使われると「お終わりのない、あまり意味のない行動を続けること」を意味します。英語では rat race というようです) / heittäytyä 「身を投げ出す」 < heittää / hetkeksi 「一瞬間の間」[変] < hetki / syrjään 「脇へ、そして、外れて」[入] < syrjä / ympärilleen 「自らの周りへ」[向]+ 単 3 所接 < ympäri / olla huomaamatta 「気づかずにいる」(huomaamatta MA 不[欠] < huomata) / kaikkialla 「あらゆるところに」⇒ kaikkialta, kaikkialle / vallitsevan 「支配的になっているような」[属] < vallitseva 能現分 < vallita / järjestelmä 「システム、体制」 / edellytykset 「前提(条件)は」[複主] < edellytys < edellyttää / vuoro-vaikutukselle 「相互影響へ、相互作用へ」[向] < vaikutus / luovuudelle 「創造性へ」[向] < luovuus < luova 能現分 < luoda / epä-tasa-arvoisesti 「不平等に」[副] < -arvoinen / kestäättömästi 「持続不可能なように」[副] < kestäätön 否分 < kestää / tehottomasti 「非効率的に」[副] < tehoton < teho

● フィンランド語理解のための訳例

〈次の〉[ときに|現代資本主義のリスの踏み車から|身を投げ出す|一瞬間の間|脇へ|そして目を向ける|自らの周りへ]、|難しい|気づかずにいることは、|〈次の〉[ことに|共/コモンは本当にある|いたるところに。支配的になっているような|資本主義の体制の|行動の前提は|もとづく|共通の作業へ|相互作用へ、そして創造性へ。資本主義はただ組織する|共/コモンを|不平等に、|社会的に、そして生態的に持続不可能なように|—そして、しばしば非効率的に。

◎ 意訳

現代資本主義のリスの踏み車から少しの間距離を置いて自分の周りに目を向けてみれば、共/コモンというものが実際にいたるところに存在していることに気づかずにはいられないだろう。その証拠に、支配的となっている資本主義という体制における作業は協力や相互作用、そして創造性にもとづくことを前提としている。ただし、資本主義は共/コモンをいうものを不平等な形で、社会的にも生態的にも持続不可能なやり方で、そして多くの場合には非効率的な形で組織しているだけなのである。

★ 補足

たしかに、人間というものが一つの社会を作って生きていくのであれば、どこにでも共/コモンが

転がっているのは当たり前のことかもしれません。重要なことは、その共／コモンをどのように組織し管理するのかという、これまた当たり前のことなのでしょう。

【19】

Ihmiset ovat tämän vuoksi ryhtyneet ratkomaan ongelmia itse ja ennen kaikkea yhdessä tekemällä. Vertaistuotantoa on syntynyt sellaisissa tilanteissa, joissa uusien ongelmien ratkaiseminen on edellyttänyt parempaa joustavuutta ja käyttäjälähtöisyyttä. Sitä on syntynyt myös siellä, missä erityisryhmät ovat halunneet palveluita eri ehdoilla kuin julkinen sektori on ne tuottanut sekä siellä, missä on tarvittu toisenlaisia käytännön toimintatapoja. Esimerkiksi maailman parhaan neuvolaverkoston rinnalle on Suomeen syntynyt kattava äitiryhmien verkosto. Yksinäiset pienten lasten äidit kokoontuvat oma-aloitteisesti yhteen internetin mahdollisuuksia hyödyntäen.

■ 語句・文法

tämän vuoksi「このために」（ここでの tämä は「公共サービスを実施するための費用が増大していること」をさしています）／ryhtyä ratkomaan「ほどこし始める、解決し始める」（ratkomaan MA 不[入] < ratkoa）／yhdessä tekemällä「一緒に行くことにより」（tekemällä MA 不[接] < tehdä）／sellaisissa tilanteissa, joissa ~「～であるような状況において」（tilanteissa [複内] < tilanne, joissa [複内] < joka）／ratkaiseminen「解決すること」動名 < ratkaista／parempaa「よりよい」[分] < parempi 比 < hyvä／joustavuutta「柔軟性を」[分] < joustavuus < joustava < joustaa < jousi／käyttäjä-lähtöisyyttä「利用者指向性を、顧客本位性を、利用者の要望を優先することを」[分] < -lähtöisyys < -lähtöinen < lähtö < lähteä／siellä, missä ~「～のようなどころにおいて」／erityisryhmät「特別な集団」[複主] < -ryhmä／eri ehdoilla kuin ~「～とは異なる条件により」（ehdoilla [複接] < ehto）／sektori「部門、セクター」／on tarvittu「必要とされている」受完 < tarvita／toisen-laisia käytännön toiminta-tapoja「別の種類の実践の行動様式、別の種類の実践的な業務方法」／parhaan「最高の、最善の」[属] < paras 最 < hyvä／neuvola-verkoston「母子健康相談所のネットワークの」[属] < -verkosto < verkko（neuvola という語は neuvo「助言、アドバイス」から派生している語であり「助言が得られる場所」を意味しますが、とくに子どもと母親を中心に家族を援助するための場であり、妊娠初期から子どもの就学前まで子どもと家族の健康を支援するための施設のことです。）／rinnalle「～と並んで」[向] < rinta／kattava「覆うような、カバーするような、包括的な」能現分 < kattaa／äiti-ryhmien「母親のグループの」[複属] < -ryhmä／yksinäiset「孤独な」[複主] < yksinäinen < yksi／pienien lasten「小さな子どもたちの」[複属] < pieni lapsi／oma-aloitteisesti「自発的に」[副] < -aloitteinen < aloite < aloittaa < alkaa／yhteen「一つへ」[入] < yksi／mahdollisuuksia「可能性を」[複分] < mahdollisuus < mahdollinen／hyödyntäen「利用することにより」e 不[具] < hyödyntää < hyöty

● フィンランド語理解のための訳例

人々は|このために|始めている|解決することを|問題を|自分自身で|そして、何よりも|一緒に行

うことにより。対等な人どうしによる共同生産は生まれている|〈次のような〉状況において|そこでは新しい問題を解決することは|前提としてきた|よりよい|柔軟性を|そして利用者本位性を。それは生まれた|また|〈次のような〉ところで、|そこでは特別な集団が望んでいる|サービスを|〈次とは〉異なる条件により|公共部門がそれらを生産してきた|さらに〈次のような〉ところで、|そこでは必要とされた|別の種類の実践の行動様式を。たとえば、世界で最高の|母子健康相談所のネットワークに並んで|フィンランドへ生まれた|覆うような|母親グループのネットワークが。孤独な|小さな子どもたちの母親は|集まる|自発的に|一つに|インターネットの可能性を利用することにより。

◎意訳

公共サービスを実施するための費用が増大しているために、人々は自ら問題を解決しようとし、なかでも協力することによって問題解決に取り組み始めている。新たな問題を解決することがよりよい柔軟性と利用者本位性を求めるような状況において、対等な人どうしによる共同生産が生まれてきている。公共部門が提供してきたのとは異なる条件でのサービスを特定の集団が望むようなところにおいて、あるいは異なる種類の実践的な業務方法が必要とされるようなところにおいて、対等な人どうしによる共同生産は生まれてきた。たとえば、世界でも最高とされる母子健康相談所のネットワークがフィンランドには存在するが、それと並んで全国を包括するような母親グループのネットワークが誕生している。小さな子どもを抱える孤独な母親たちがインターネットの提供する可能性を利用することにより自発的にまとまろうとしているのである。

★補足

SNS と SMS の区別もできないような私がいうのもおかしいのですが、インターネットというもののもつ可能性には計り知れないものがあるようです。これについては【15】の「 推薦図書」でも挙げたりフキンの著作などを読むとよくわかります。これまで存在しなかったような犯罪を生み出し、あるいは理由もなく人を攻撃するとてもつもない武器ともなるインターネットというものを、いかに地球や人間の利益になるように活用していくのか、という問題についてしっかりと考えることは、現代における最重要課題の一つだと思います(もちろん「人工知能」などについても同じことがいえます)。

【20】

Julkisen sektorin vertaistuotantoa tukeva rooli on lisäksi tärkeä ympäristövaikutusten hillitsemisessä ja luonnonresurssien kulutuksen pienentämisessä. Vertaistuotannon kehittämistä voivat jarruttaa tiedon yksityistämisen pyrkimykset. Yliopistolaki tulee esimerkiksi pitkällä tähtäimellä yksityistämään tutkimusta. Saman tekee kiristyvä tekijänoikeuslainsäädäntö, joka hankaloittaa tiedon jakamista. Tiedon tekeminen niukaksi resurssiksi vaikeuttaa uusien innovaatioiden ja uusien palveluiden syntyä, ja sitä kautta tietopohjaisen talouden kehittymistä.

■ 語句・文法

vertais-tuotantoa tukeva 「対等な人どうしによる共同生産を支援するような」(tukeva 能現分 < tukea) / ympäristö-vaikutusten hillitsemisessä 「環境への影響を抑制することにおいて」(hillitsemisessä [内] < hillitseminen 動名 < hillitä / luonnon-resurssien kulutuksen pienentämisessä 「天然資源の消費を小さくすることにおいて」(pienentämisessä [内] < pienentäminen 動名 < pienentää < pieni) / kehittämistä 「発展させることを、開発することを」[分] < kehittäminen 動名 < kehittää / jarruttaa 「ブレーキをかける、遅らせる」< jarru / yksityistämisen 「私有化することの、私物化することの」[属] < yksityistäminen 動名 < yksityistää < yksityinen < yksi / pyrkimykset 「試み」[複主] < pyrkimys < pyrkiä / yliopisto-laki 「大学法」(この「大学法」は 2009 年 558 号法令ですが、<<https://www.finlex.fi/fi/laki/ajantasa/2009/20090558>>で見ることができます。なお、フィンランドにおいても大学は徐々に市場原理に巻き込まれていっているようです。) / tulee yksityistämään 「私有化することになる、私物化することになる」(tulla という動詞は MA 不定詞入格をしたがえると、未来を表します) / pitkällä tähtäimellä 「長期的に見ると」[接] < pitkä tähtäin (tähtäin < tähdätä) / kiristyvä 「締めつけられるような、厳しくなるような、厳格化されるような」能現分 < kiristyä < kirittää / tekijän-oikeus-lain-säädäntö 「著作権法令」 / hankaloittaa 「面倒にする、難しくさせる」< hankala / jakamista 「分けることを、共有することを」[分] < jakaminen 動名 < jakaa / tiedon tekeminen niukaksi resurssiksi 「知識・情報を希少な資源にすること」(tekeminen 動名 < tehdä, niukaksi resurssiksi [変] < niukka resurssi / uusien innovaatioiden 「新しい革新の、新しいイノベーションの」[複属] < uusi innovaatio / sitä kautta 「それを通じて」 / tieto-pohjaisen 「知識基盤型の」[属] < -pohjainen / kehittymistä 「発展することを」[分] < kehittyminen 動名 < kehittyä

● フィンランド語理解のための訳例

公共部門の | 対等な人どうしによる共同生産を支えるような | 役割は | 加えて重要である | 環境への影響を抑制することにおいて | そして天然資源の消費を小さくすることにおいて。対等な人どうしによる共同生産の | 発展することを | 遅らせるかもしれない | 知識を私物化することの試みが。大学法はすることになる | たとえば | 長期的に見れば | 私物化することに | 研究を。同じことを | する | 厳しくなる著作権法令が、 | それは面倒にする | 知識・情報の | 分けることを。[知識・情報をすることは | 希少な

資源に] | 難しくする | 新しい革新の | そして新しいサービスの | 誕生を、 | そして、それを通じて | 知識基盤型の経済の | 発展することを。

◎意訳

対等な人どうしによる共同生産というものを公共部門が支援する役割というものはさらに、環境に対する影響を抑制し、天然資源の消費を減少させるうえでも重要なものである。なぜなら、対等な人どうしによる共同生産というものは、知識や情報を私物化しようとする試みによって妨げられる可能性があるからである。たとえば大学法なども、長期的視点に立てば研究を私物化することにつながるだろう。同様なことは、厳格化される著作権法が知識・情報の共有を困難にすることによっても引き起こされるだろう。知識・情報を希少な資源にしようとすることにより、新たなイノベーションや新たなサービスの誕生が困難となり、その結果として知識基盤型経済の発展をも困難にさらすことになる。

★補足

共／コモンをいかに守るのか、ということが公権力の果たすべき重要な役割の一つだと思いますが、「規制緩和」や「自己責任」といった掛け声に合わせて「共／コモン」をひたすら「私」に変えてきた公権力の在り方を変える必要があるような気がします。

【21】

Vertaistuotanto on yhteisöllinen tapa järjestää ihmisten ja ympäristön hyvinvointiin liittyvää kysyntää joustavasti, tehokkaasti ja kestävästi. Vertaistuotanto mahdollistaa eri hyvinvointisektoreille yhä laajemmat, räätälöidyt ja osallistavat palvelut. Erytisryhmille se luo osallistavia ja käyttäjälähtöisiä ratkaisuja. Julkinen valta on avainasemassa tällaisten hankkeiden tukemisessa.

■語句・文法

yhteisöllinen「共同体の、共同体的な」／järjestää「手配する、開催する、編成する、組織する」／hyvin-vointiin liittyvää kysyntää「福祉・厚生に結びつくような需要を」(liittyvää [分] < liittyvä 能現分 < liittyä, kysyntää [分] < kysyntä < kysyä)／joustavasti「柔軟に」[副] < joustava 能現分 < joustaa／tehokkaasti「効率よく」[副] < tehokas < teho／mahdollistaa「可能にする」< mahdollinen／hyvin-vointi-sektoreille「福祉・厚生部門に対して」[複向] < -sektori／laajemmat, räätälöidyt ja osallistavat palvelut「より広い、仕立てられたような、そして参加させるようなサービスを」[複主対] < laajempi, räätälöity ja osallistava palvelu (laajempi 比 < laaja, räätälöity「仕立てられた、オーダーメイドの」受過分 < räätälöidä < räätäli, osallistava「参加させるような、包摂するような」能現分 < osallistaa < osallinen < osa)／ratkaisuja「解決策を」[複分] < ratkaisu < ratkaista／avain-asemassa「カギとなる立場に」[内] < -asema／hankkeiden「プロジェクトの」[複属] < hanke／tukemisessa「支援することにおいて」[内] < tukeminen 動名 < tukea

●フィンランド語理解のための訳例

対等な人どうしによる共同生産は|共同体的な方法である|組織するための|[人間と環境の福祉・厚生に|結びつくような|需要を]|柔軟に、効率的に、そして持続可能なやり方で。対等な人どうしによる共同生産は可能にする|さまざまな福祉・厚生部門に対して|さらに|より広い、仕立てられた、そして参加させるようなサービスを。特別なグループへ|それは作り出す|参加させるような|そして利用者本位の解決策を。公権力はカギとなる立場にある|このようなプロジェクトの|支援することにおいて。

◎意識

対等な人どうしによる共同生産というものは、人間と環境の福祉・厚生に結びつくような要求に対して柔軟かつ効率的に、そして持続可能な形で対処しようとする共同体的な方法である。対等な人どうしによる共同生産はさまざまな福祉・厚生分野に対して、さらに広範で、かつ個々の人間に適するように設計された包摂的なサービスを可能にしてくれる。特定のグループに対して対等な人どうしによる共同生産は、包摂的で利用者本位の解決策を作り出してくれるのである。公権力はこのような取り組みを支援することにおいてカギとなる立場にあるのである。

★補足

この資料では *vertaistuotanto* というものについて勉強してきましたが、そこに出てくる *vertainen* に相当する英語の *peer*「ピア」という語は「ピア統治」「ピア政治」などという形でも使われるようです(これについては、たとえば【15】の「★補足」で挙げたりフキン(2023)などを参考にしてください)。機会があれば、いずれ扱いたいとは思っています。一方、「共/コモン」については、やはり斎藤幸平さんの著作を読むとよいと思います(【1】の「★補足」で紹介しました)。

さて、今後の資料では「社会的企業」「共有経済」「協同組合」「連帯経済」などについて勉強していきたいと思っています(これらについては、すでに日本でも多くの取り組みが行われているようですので、ぜひ調べてみてください)。後の資料のどこかで *aikapankki*「時間銀行」についても触れることになると思いますが、これなども今回扱った「対等な人どうしによる生産」の代表的な取り組みかもしれません。

◆出典

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【15】【16】【17】【18】:

Toivanen, Tero ja Juhana Venäläinen. 2015. ”Yhteisvaurauden uusi aika”. Jakonen, Mikko ja Tiina Silvasti (toim.). *Talouden uudet muodot*. Into. 24-48.

【1】【2】24、【3】24-25、【4】25、【5】36、【6】37、【15】37-38、【16】42-43、【17】18、
【18】43-44

【7】:

Björk, Bo-Christer ja Mikko Välimäki. 2007. ”Wikipedia monitieteisenä tutkimuskohteena”. *Tieteessä tapahtuu* 7/2007. 7-8. <<https://journal.fi/tt/article/view/319/282>>

【8】【19】【20】【21】:

Nurmio, Aarne ja Teppo Turkki (toim.). 2010. *Elinvoimainen Suomi*. Sitra.
<<https://www.sitra.fi/julkaisut/elinvoimainen-suomi/>>

【8】【19】40、【20】41、【21】81

【9】【10】【11】【12】【13】【14】

Paakki, Jukka. 2014. ”Linus Torvalds (s. 1969): Avoin lähdekoodi”. Markkanen, Tapio, Allan Tiitta & Paula Havaste (toim.). *Suomalaisia tieteen huipulla: 100 tieteen ja teknologian saavutusta*. Gaudeamus. 208-209.

【9】209、【10】【11】208、【12】208-209、【13】【14】209